

述 懷

湘波漁夫

富とみをうらやむことなかれ

自然じぜんのらくは貧ひんにあり

玉たまのさかづきかゝやきて

盛もる酒さけいかにうまくとも

夕ゆふがほだなの下したすゝみ

まとひたのしきはらからが

くみてすゝむる一いぱいの

にむりの酒さけにしかめやも

かれにながむる庭にはあらば

吾われにたがやす田たはたあり

かれに乗のるべき馬車ばしやあらば

われによむべき文ふみはあり

よしもつ筆ふではほそくとも

みさをの節せつはあるものを

民たみのあぶらに肥こえふとる

ほねなき人ひとにおとらんや

花はなのころもはまとなねど

おなじ雲井くもかに澄よみわたる

月つきをながむるわれなれば

おのれが運うんにやすらひて

不正ふせいのとみはうらやまじ

不仁ふじんのさかえねがうまじ

◎短歌募集

△課題 隨意

△切 毎月末日

△發表 本誌上

△賞品 三光に粗景を呈す

△選評 眞宮起雲

△投稿 用紙は隨意にて左記の所に送らる可し